

## 輸入粗飼料の情勢

全酪連購買部  
購買推進課

### 北米コンテナ船フレート

7月からBAF（Bunker Adjustment Factor 燃料費調整係数：燃料価格変動に対して調整される割増運賃）の値上げが実施されました。同時にGRI（General Rate Increase：基礎レートの値上げ）の値上げも各船会社とも実施される予定です。PSW（Pacific South West Area 太平洋側南西部地区）のコンテナ供給は問題ありませんが、PNW（Pacific North West Area 太平洋側北西部地区）のコンテナ供給は依然として厳しい状況が続いています。今後もコンテナ不足の厳しい状況は暫く続くと思われれます。

### UAE需要動向（続報）

先月号に掲載の通り、UAE（アラブ首長国連邦）向けの米国産アルファルファが驚異的に数量を伸ばして輸出されています。特に今年に入ってからでは需給が合致し、大量に在庫されたままの08年産の生産農家在庫、サプライヤー在庫が輸出されていますが、4月単月では日本向け輸出が62,769MTに対して、UAE向け輸出が65,931MTと、ついに日本向けを上回る勢いとなりました。UAEからは09年産も、アルファルファだけではなく、禾本科牧草の引合いも強いとの情報もあり、今後の動向に注意が必要です。

米国産アルファルファ輸出量（MT） 1-12月・2009年は1-4月

	2007年	シェア	2008年	シェア	2009年	シェア
日本	490,106	66%	558,492	61%	250,695	51%
韓国	134,489	18%	159,352	17%	45,764	9%
<b>UAE</b>	<b>27,946</b>	<b>4%</b>	<b>103,419</b>	<b>11%</b>	<b>158,970</b>	<b>32%</b>
台湾	54,227	7%	51,248	6%	11,773	2%
中国	2,321	0%	19,348	2%	13,389	3%
ベトナム	1,117	0%	1,248	0%	373	0%
その他	38,299	5%	24,951	3%	9,577	2%
計	748,505	100%	918,058	100%	490,541	100%

## ビートパルプ

### <米国産>

09年産の作付けは、日本向けの主力となるノースダコタ州では降雨のためかなりの遅れをとっており、例年よりも3週間ほど遅れて6/7の週にすれ込みました。最終的にどの程度の収量となるかは今後の生育環境によるところも大きく、状況を注視していく必要があります。

作付面積は、前年対比で約14%増加の見込みです。これは昨年の穀物相場高騰を背景に、収益性の高い小麦、大豆等に転作が進んだ後に相場が下落した影響の反動によると考えられます。作付けの遅れは懸念材料として残りますが、作付面積の増加およびGMO種への切り替えが90%を超え、収量アップも期待できることから、ビートパルプペレットの生産量も増加が見込まれています。

### <中国産>

韓国の最新輸入通関統計によると、5月の中国産ビートパルプ輸入数量は12,546トンであり、ここ数ヶ月で最も多く、予想外の結果となりました。

中国産ビートパルプペレットは、中国政府の穀物備蓄政策の影響もあり作付面積が減少し国内価格も支えられているため、引続き日本向けの輸出数量は限られたものになると思われます。

## アルファルファヘイ

### <ワシントン産>

コロンビアベースンでは、6月初旬には1番刈の刈取りが終了しています。順調に生育していましたが6月第1週の週末に降雨があり、北ベースン地域では約50%程度雨当たりや刈り遅れの品質が発生している一方で、中央・南ベースン地域では、ほぼ雨に当たっておらず、品質も良品が期待できそうな見通しです。買付けの得意な地域がそれぞれにあるので、サプライヤーごとに状況は異なってきますが、コロンビアベースン全体では約35%程度が雨当たりの被害を受け、刈り遅れたアルファルファは収穫をせずに、種取り用に回されているようです。

1番刈は、例年の60-70%程度の雨あたりに比べたら被害は少なく、かつ08年産の暴騰から産地価格も冷めてきているため、昨年のスタート時より安価になる見込みです。しかし各サプライヤーとも昨年のように在庫を抱えすぎないよう、確実に販売できるだけの必要最低限の数量しか買い揃えていないこと、例年の傾向ではありますが3タイよりBIGボールでの収穫が増えてきているため、輸出向け需要の高い3タイが不足気味であることと、さらに前述の降雨の影響により、1ヶ月前の予想価格よりも少し高くなっているのが現状です。品質面では、雨あたりを

逃れたアルファルファヘイは良品揃いで、レベルの高い仕上がりとなっているようです。

6月最終週には南ベースンの一部で2番刈の刈取りが始まりましたが、タイミング悪く小雨があり、僅かな圃場で雨当たりが出てしまっているようです。コロンビアベースンでの2番刈が本格化してくるのは、7月第1週から第2週にかけての時期だと思われます。2番刈以降の作柄と価格も、今後の天候が大きく影響すると思われる、注意が必要です。



1番刈検品写真



南ベースン 2番刈

#### <オレゴン産>

クリスマスバレーでは6月の第3週目から本格的に1番刈の刈取りが開始されています。当初の予定だと6/10前後の刈取り開始が予想されていたものの、その時期に降雨が続いたため、生産農家は刈取りのタイミングを待っていたようです。刈取り時期は遅れましたが、気温も低く推移していたようで、アルファルファの成長速度は遅く、刈り遅れの品質までには至っていないようです。また刈取り開始から現在まで、天候については特に問題ないようです。

クラマスフォールズでも、6/10前後から1番刈の刈取り開始が予想されていましたが、こちらもクリスマスバレー同様、降雨が続いたために、6/20前後の刈取り開始となっているようです。一部早めに刈取りを開始した生産農家で雨当たりの被害も発生しているようです。こちらも刈り遅れが懸念されますが、降雨続きで気温が上がらず、成長速度も遅く、品質的には問題ないようです。

#### <ネバダ産>

ネバダ州では5月末から6月頭にかけて1番刈の刈取り開始が予想されていましたが、降雨が続いたために6月の第3週目前後から刈取りが開始されており、先週刈取りとベーリングが行われ、今週には終了する見込みのようです。オレゴン産と同様、天候が回復してからの刈取り開始となったため刈り遅れが見られ、開花している圃場も散見されるようです。今のところ、刈取り後の降雨の情報はなく、雨当

たりの被害は発生していないようです。

#### ＜カリフォルニア産＞

インペリアルバレーでは、現在4番刈りがほぼ終了を迎えています。気温は40℃超と非常に暑く、雨は降っていないようです。今後も暑い気候が続くため、これから刈取りされるものについては、例年通り品質が落ちてくるものと考えられます。需要傾向としては、米国内、韓国、中東、日本等からの引合いが少しずつある模様です。

### チモシー

#### ＜米国産＞

コロンビアベースン、エレンズバーグともに1番刈の収穫は終盤を迎えております。コロンビアベースンではアルファルファ同様に、北ベースン地域を中心に雨当たり被害を受け、エレンズバーグでも高い割合で雨当たり被害を受けているようです。09年産は、馬用プレミアム品と酪農用プレミアム品が不足気味で、茶葉混じりと変色した品質も見受けられるため、08年産とは一転してローグレード品中心の作柄となる見込みです。価格に関してもタイト感と日本からの需要により、それほど下がらないとも予想されています。

#### ＜カナダ産＞

09年産は、春先の冷涼な気候と最近の乾燥気味な気候のため、生育が10-14日ほど遅れています。この生育状況と作付面積の減少により、全体の収量は減少すると予想されています。また、カナダ西部地区が早乾傾向で、牧草が不足気味なためカナダ国内の引合いも強くなっているようです。

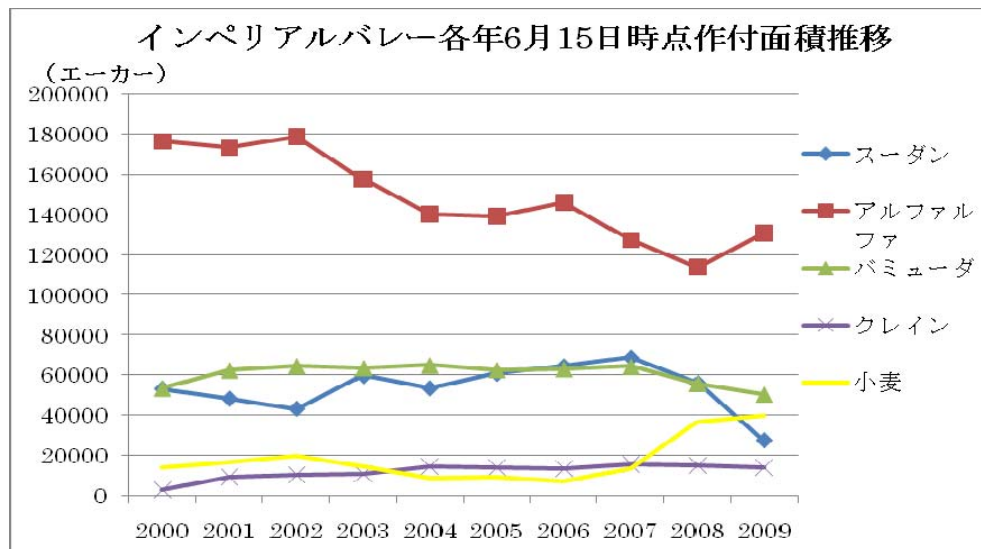


レスブリッジ チモシー圃場

### スーダン

インペリアルバレーでの09年産作付け状況は、6/15時点のエーカレッジレ

ポートによると前年対比48%大幅減の29, 326エーカー、さらに7/1時点では前年対比53%大幅減の31, 109エーカーとなっています。輸出向け需要の大幅な落ち込み、価格の下落懸念から今後のスーダンの市場価格回復に期待が持てず、多くの生産農家が09年産の作付けを見送ったため、このような近年まれにみる減少となっています。輸出向けの茎細品と色抜け品の良品確保がどれだけ進むかは、不透明な状況です。価格については買付けも本格化しておらず、現時点では明確ではありませんが、今後の日本からの需要動向にも大きく左右されると思われます。



北カリフォルニアでは09年産の播種が終了しましたが、こちらも前年対比で50%程度の大幅な作付け減の予想となっています。例年はオーツ・ライグラス・小麦の収穫後の作付けとなりますが、輸出向けの市場価格が悪いので、サンフラワーやトマトへの転作が進んでいます。

### クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

現在2番刈の最中です。全体的に品質は、08年産よりも良品が多い傾向のようです。エーカーレヅレポートによると、6/15時点でも先月と同様に前年対比で6%の減少となっていますが、09年産の市場価格次第では、生産農家は生産を終了して圃場を休耕させる可能性もあり、生産量の減少が懸念されます。また、日本以外の輸出需要も、回復の兆しがある韓国をはじめ、UAEもクレイングラスに興味を持ち始めている模様で、今後の引合い次第では価格への影響も懸念されます。

### バミューダ

09年産はエーカーレヅレポートによると、6/15時点でも先月と同様に前年対比で9%の減少となっています。生産量については、種子相場が良くないことと、輸出向けハイ・ストローの荷動きが低調なことから、20%程度の減少が見込まれ

ています。

## ストロー類

09年産のストロー類の作付け動向については、今のところ先月までと同様に、ライグラスは20%、フェスキューは15%–20%減少すると予想されています。春先の冷涼な気候のため、生育が例年より遅れていますが、最近の好天により遅れを取り戻しつつあります。順調に進めばライグラスストローは7月下旬に、フェスキューストローは7月中旬に収穫が開始される見通しとなっています。

## 豪州産オーツハイ

### ＜コンテナ船状況＞

現在、豪州からの農産物輸出は比較的順調な状況ですが、豪州の輸入コンテナは自動車関連の不振とアジアからの生活資材の伸び悩みにより減少しており、その結果、豪州内での空コンテナの不足が続いています。さらに東豪州と南豪州の航路では、荷動きの減少と合理化のため日本向け輸出のスペースがほぼ半減と、非常にタイトになっている状況です。

### ＜南豪州＞

4月末から5月にかけて平均並みの降雨があったため、5月末までに播種は終了しました。例年に比べて少し早めの播種終了ですが、過去2年の傾向として比較的早播きしたものが刈取り時の雨に当らず良好な結果であったため、早めに播種を行う生産農家が増えたものと思われます。6月に入っても例年以上にまとまった降雨があり、今のところ生育状況は極めて良好となっています。



南豪州 オーツハイ圃場

#### <西豪州>

5月の播種時期には降雨は少ない状況でしたが、6月に入り前半にまとまった降雨があり、6月の第3週には30-40mmの降雨が観測されています。6月は西豪州の多くの牧草栽培地域で50-100mmの降雨を得ています。播種作業は遅い地域では6月中旬までかかっており、全体的にみても例年に比べて遅れ気味のスタートです。ただし、今後も降雨には恵まれそうとの予報が出ており、南豪州と同様に生育は順調に進むと予想されています。

以 上